# 令和3年度の農業を振り返る

## 稲作

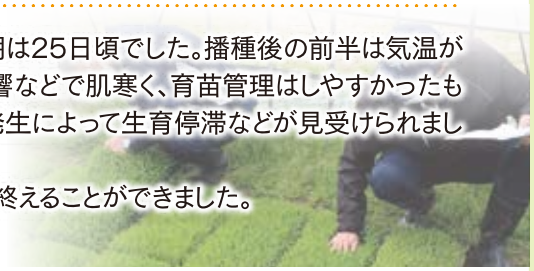
**令和3年産水稲の作況指数（秋田中央部）は「102」のやや良となりました。また、異常気象下の中で品質への影響もあり、1等米比率は87.1％となりました。**

**各生育ステージでの生育状況を振り返ります。**

### ▶[ 播種～育苗期 ]

本年の水稲育苗について、始期は4月12日から、盛期は17日頃、終期は25日頃でした。播種後の前半は気温が高く、日照時間が多かったため順調に生育しました。後半は時折風の影響などで肌寒く、育苗管理はしやすかったものの、一部で低温による発芽ムラや苗立枯病、寒暖差によるカビなどの発生によって生育停滞などが見受けられました。全体的には苗の生育は概ね良好でした。

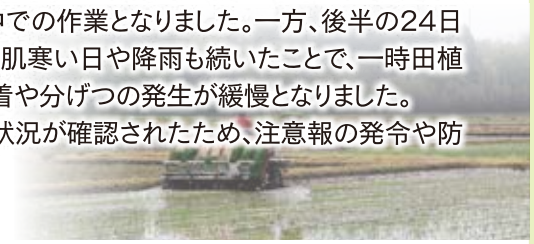
また、耕起作業は、圃場乾燥は進みませんでしたが、平年並みに作業を終えることができました。



### ▶[ 田植え～生育初期 ]

田植えは5月15日頃から始まり、気温も徐々に上がり比較的好天の中での作業となりました。一方、後半の24日から強風などの低温傾向に見舞われ、平均気温が20℃を下回る比較的肌寒い日や降雨も続いたことで、一時田植えを見合わせた方々も見受けられました。後半の気温低下により、苗の活着や分げつの発生が緩慢となりました。

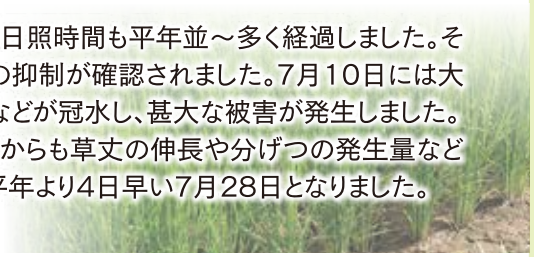
また、男鹿地区の一部地域で「マイマイガ」が大量発生し、茎葉食害の状況が確認されたため、注意報の発令や防除の徹底を図りました。



### ▶[ 生育中期～出穂期 ]

梅雨入りは6月19日となり、少雨で経過しました。気温がかなり高く、日照時間も平年並～多く経過しました。そのことから、表層剥離や青カナの発生が見られ、一部圃場では分げつの抑制が確認されました。7月10日には大雨・洪水警報が発令され、秋田市太平地区・上新城地区において圃場などが冠水し、甚大な被害が発生しました。

その後、気温が上昇して30℃以上となる日が続き、定点の生育調査からも草丈の伸長や分げつの発生量などの回復傾向などが確認でき、生育が急進しました。出穂期については、平年より4日早い7月28日となりました。

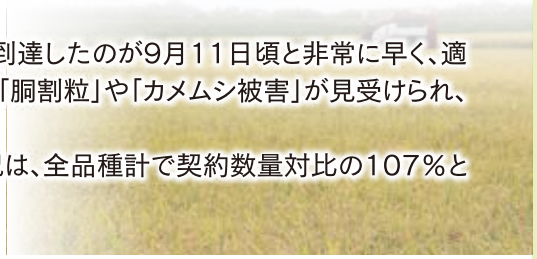


### ▶[ 登熟期～収穫期 ]

8月の登熟期以降は高温多照となり、降水も少ない日が続き、水不足の地域では高温障害の影響が懸念されました。9月上旬は刈取りを目前に控え、気温が低下しましたが、出穂期が早まったことから成熟期が平年より3日早い9月11日頃となり、刈取りが早まる傾向となりました。

収穫作業は9月中旬頃から始まりましたが、積算気温が1050℃に到達したのが9月11日頃と非常に早く、適期刈取りが心配されました。品質面での結果では、高温による影響から「胴割粒」や「カメムシ被害」が見受けられ、1等米比率の低下の要因となりました。

全体的な収量については豊作基調となり、管内の米の買い入れ状況は、全品種計で契約数量対比の107％となりました。



## 次年度に向けた取り組み

### ▶[ 高温障害対策（ケイ酸質資材の使用） ]

気象変動に対応する土づくりは、作柄だけでなく、品質低下の軽減に繋がります。

ケイ酸質肥料は丈夫な茎や葉を作り、気象によるリスク障害などを軽減し、いもち病などの病害虫の被害や割れ籾の発生と斑点米の被害を軽減します。